

2019年8月9日

上場会社名 原田工業株式会社  
コード番号 6904 URL <https://www.harada.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三宅 康晴

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総合企画部長 (氏名) 青木 隆

TEL 03-3765-4321

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	10,655	0.2	220	16.0	192	42.5	130	49.0
2019年3月期第1四半期	10,678	0.6	262	59.3	334	57.3	255	52.4

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 346百万円 ( %) 2019年3月期第1四半期 450百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	6.00	
2019年3月期第1四半期	11.76	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	35,373	13,986	39.5	643.02
2019年3月期	35,236	13,803	39.2	634.61

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 13,986百万円 2019年3月期 13,803百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		7.50	7.50
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		7.50	7.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,500	4.0	350	51.8	250	59.1	150	72.3	6.90
通期	41,500	3.8	1,200	30.9	1,000	30.7	650	30.6	29.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	21,758,000 株	2019年3月期	21,758,000 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	7,102 株	2019年3月期	7,102 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	21,750,898 株	2019年3月期1Q	21,750,901 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(四半期連結貸借対照表関係注記) .....	7
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国では底堅い雇用情勢や個人消費により堅調に推移いたしました。欧州では、雇用情勢や個人消費が底堅く推移したものの、生産・輸出が依然として低迷しており減速傾向が続いております。アジアにおいては、中国では個人消費は堅調であるものの、輸出の低調等総じて減速基調となり、アセアン地域においても、堅調であった内需の勢いに陰りがみられ減速基調となっております。

日本国内経済につきましては、個人消費の持ち直しや雇用、所得情勢の改善を背景とした緩やかな回復が続いております。

当社グループの属する自動車業界におきましては、自動車の生産台数が日本では増産となったものの、アジア、欧州、北中米では減産となり、世界の自動車生産台数は前年同期に比べ減産となりました。

このような状況のもと、当社グループは「新たな成長への挑戦」を基本戦略とした、今期を初年度とする4か年の中期経営計画「NEW GROWTH」を策定し、「車載アンテナビジネスの強化」、「新しい価値づくり、新しい顧客創造」、「更なる成長の土台となる組織基盤の強化」の3つの戦略を掲げ、これまでも実施してまいりましたコスト構造改革の更なる進化に加え、自動運転時代到来に向けたものづくりの高度化等、3つの戦略のうち特に「車載アンテナビジネスの強化」に向けた諸施策に注力してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、拡販活動等により好調な市場があったものの、自動車生産台数の減少等による一部地域での低迷により、106億55百万円（前年同期比0.2%減）となりました。利益面につきましては、売上原価率は前年同期並みで推移したものの、販管費率の上昇により、営業利益は2億20百万円（同16.0%減）となりました。また、経常利益は営業利益額の減少等により1億92百万円（同42.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億30百万円（同49.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

## ①日本

自動車生産台数の増加を背景とした拡販活動等により、外部売上高は37億34百万円（同5.7%増）、セグメント間の内部売上高は6億22百万円（同29.2%減）、営業損失は56百万円（前年同期は営業利益1億51百万円）となりました。

## ②アジア

自動車生産台数はアセアン市場では増加したものの、中国市場での大幅な減少等により、外部売上高は24億59百万円（前年同期比11.7%減）、セグメント間の内部売上高は35億41百万円（同21.7%増）、営業損失は0百万円（前年同期は営業損失1億23百万円）となりました。

## ③北中米

北米市場における自動車生産台数の減少等により、外部売上高は32億12百万円（前年同期比3.0%減）、セグメント間の内部売上高は17百万円（同7.9%減）、営業利益は37百万円（同79.4%減）となりました。

## ④欧州

欧州市場における自動車生産台数は減少となったものの、拡販活動等により、外部売上高は12億49百万円（同19.3%増）、セグメント間の内部売上高は3億89百万円（同211.2%増）、営業利益は1億34百万円（前年同期は営業利益2百万円）となりました。

なお、セグメントの売上については外部顧客に対する売上高とセグメント間の内部売上高を記載しております。

（2）財政状態に関する説明

当社グループは財務体質の改善目標として営業利益率など収益性の改善ももちろんのことですが、当社グループの課題である経営の安全性を高めるため、有利子負債の削減、たな卸資産の圧縮、自己資本の充実等に努めてまいりました。この結果、次のとおりの財政状態となりました。

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は265億37百万円（前連結会計年度末269億24百万円）となり、3億86百万円減少いたしました。これは主に「原材料及び貯蔵品」が2億13百万円、「商品及び製品」が1億19百万円減少したことによるものであります。固定資産は88億35百万円（前連結会計年度末83億11百万円）となり、5億23百万円増加いたしました。これは主に「有形固定資産」が6億4百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は353億73百万円（前連結会計年度末352億36百万円）となり、1億37百万円増加いたしました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は196億73百万円（前連結会計年度末199億26百万円）となり、2億53百万円減少いたしました。これは主に「短期借入金」が3億52百万円増加し、「支払手形及び買掛金」が4億16百万円減少したことによるものであります。固定負債は17億14百万円（前連結会計年度末15億6百万円）となり、2億7百万円増加いたしました。これは主に「その他」に含まれる「リース債務」が2億15百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は213億87百万円（前連結会計年度末214億33百万円）となり、45百万円減少いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は139億86百万円（前連結会計年度末138億3百万円）となり、1億82百万円増加いたしました。これは主に「為替換算調整勘定」が2億17百万円増加したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期連結業績予想につきましては、2019年5月14日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,888,768	6,816,443
受取手形及び売掛金	7,962,315	7,927,761
商品及び製品	5,182,677	5,062,707
仕掛品	630,204	716,651
原材料及び貯蔵品	5,170,369	4,956,527
その他	1,113,103	1,079,787
貸倒引当金	△22,809	△21,969
流動資産合計	26,924,628	26,537,909
固定資産		
有形固定資産	5,271,153	5,875,211
無形固定資産	363,498	350,323
投資その他の資産	2,677,136	2,610,180
固定資産合計	8,311,788	8,835,715
資産合計	35,236,417	35,373,625
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,748,617	3,331,992
電子記録債務	734,288	647,342
短期借入金	11,424,233	11,776,610
1年内返済予定の長期借入金	500,000	500,000
未払法人税等	1,687,761	1,630,422
賞与引当金	340,814	467,806
役員賞与引当金	33,500	8,500
その他	1,457,572	1,310,489
流動負債合計	19,926,786	19,673,163
固定負債		
長期借入金	1,000,000	1,000,000
退職給付に係る負債	168,114	159,471
その他	338,247	554,802
固定負債合計	1,506,361	1,714,273
負債合計	21,433,148	21,387,437
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,019,181	2,019,181
資本剰余金	1,859,981	1,859,981
利益剰余金	10,174,863	10,142,239
自己株式	△2,346	△2,346
株主資本合計	14,051,679	14,019,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,637	9,307
為替換算調整勘定	△147,758	69,647
退職給付に係る調整累計額	△115,290	△111,824
その他の包括利益累計額合計	△248,411	△32,869
純資産合計	13,803,268	13,986,187
負債純資産合計	35,236,417	35,373,625

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	10,678,744	10,655,648
売上原価	8,386,367	8,360,552
売上総利益	2,292,376	2,295,095
販売費及び一般管理費	2,029,893	2,074,582
営業利益	262,483	220,513
営業外収益		
受取利息	10,576	8,551
その他	108,067	24,951
営業外収益合計	118,644	33,502
営業外費用		
支払利息	45,641	57,094
その他	901	4,447
営業外費用合計	46,543	61,542
経常利益	334,584	192,473
特別利益		
固定資産売却益	—	171
特別利益合計	—	171
特別損失		
減損損失	954	1,173
固定資産除却損	868	3,945
特別損失合計	1,823	5,118
税金等調整前四半期純利益	332,760	187,526
法人税、住民税及び事業税	134,102	150,272
法人税等調整額	△57,032	△93,254
法人税等合計	77,070	57,018
四半期純利益	255,690	130,508
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	255,690	130,508

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	255,690	130,508
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△767	△5,330
為替換算調整勘定	△708,887	217,406
退職給付に係る調整額	3,651	3,466
その他の包括利益合計	△706,003	215,542
四半期包括利益	△450,312	346,050
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△450,312	346,050
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループのIFRS適用子会社は、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。当該会計基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。

また、過去にIAS第17号を適用してオペレーティング・リースに分類した借手としてのリースについては、適用開始日に、使用権資産及びリース負債を認識しております。

この結果、当第1四半期連結貸借対照表は、「有形固定資産」が275,697千円、流動負債の「その他」が43,327千円、固定負債の「その他」が227,113千円増加しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係注記)

偶発債務（移転価格税制関係）

当社の連結子会社である大連原田工業有限公司は、当社及び当社の連結子会社との取引に関し、中国税務当局による移転価格税制に係る調査を受けており、当社は現時点で発生の可能性が高いと予想される追徴税の負担見込額を未払法人税等として計上しております。現時点においては、調査の最終的な結果を得ておらず、当社が見積り計上した金額以上の負担の有無及びその金額は今後の交渉状況等によることとなります。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	アジア	北中米	欧州	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	3,531,901	2,786,827	3,312,754	1,047,260	10,678,744	—	10,678,744
セグメント間の内部売上高又は振替高	878,329	2,909,763	19,191	125,269	3,932,553	△3,932,553	—
計	4,410,231	5,696,590	3,331,945	1,172,530	14,611,298	△3,932,553	10,678,744
セグメント利益又は損失(△)	151,445	△123,352	184,033	2,615	214,742	47,740	262,483

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額47,740千円は、セグメント間取引消去であります。  
 2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、今後の使用見込みがたたない遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「日本」が954千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	アジア	北中米	欧州	計		
売上高							
外部顧客に対する売上高	3,734,049	2,459,969	3,212,502	1,249,126	10,655,648	—	10,655,648
セグメント間の内部売上高又は振替高	622,235	3,541,897	17,674	389,785	4,571,592	△4,571,592	—
計	4,356,285	6,001,866	3,230,177	1,638,912	15,227,241	△4,571,592	10,655,648
セグメント利益又は損失(△)	△56,189	△625	37,897	134,994	116,076	104,436	220,513

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額104,436千円は、セグメント間取引消去であります。  
 2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいて、今後の使用見込みがたたない遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「日本」が1,173千円であります。